

4 【分析2】教科の調査結果と学校質問紙の調査結果との関係

ここでは、学校を平均通過率（教科全体）の高いAグループと低いBグループに分け、グループごとの学校質問紙調査の回答状況と平均通過率の状況とを比較した。

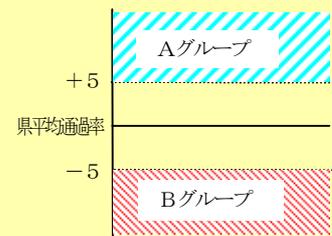
その中でも、AグループとBグループの回答状況において、「よくあてはまる」と回答した割合の差が10ポイント以上あるものを、教科の学習内容の定着に有効と考えられる指導内容、指導方法であると判断し、取り上げている。

学校質問紙のうち、教育活動全般に関する質問項目と教科の指導のうち教科共通項目について分析し、結果を一覧表にして示すとともに、小・中学校の各教科において、「よくあてはまる」と回答した割合の差が最も大きい項目をグラフにした。

【グループ化について】

Aグループ・・・平均通過率が県平均より+5ポイント以上の学校群

Bグループ・・・平均通過率が県平均より-5ポイント未満の学校群



◆ 小学校

	国語		算数		理科	
	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数
Aグループ	75.1%以上	169校	74.8%以上	130校	66.3%以上	134校
県平均通過率	70.1%		69.8%		61.3%	
Bグループ	65.1%未満	109校	64.8%未満	103校	56.3%未満	107校

◆ 中学校

	国語		数学		理科		英語	
	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数	平均通過率	学校数
Aグループ	76.7%以上	60校	74.0%以上	78校	44.9%以上	61校	77.1%以上	93校
県平均通過率	71.7%		69.0%		39.9%		72.1%	
Bグループ	66.7%未満	42校	64.0%未満	53校	34.9%未満	56校	67.1%未満	60校

(1) 教科の調査結果と学校質問紙調査（教育活動全般）結果との関係

ここでは、A・Bの2グループについて、「よくあてはまる」と回答した学校の割合の差が10ポイント以上あった項目に★をつけている。（20ポイント以上の項目は★★）

★印が小学校3教科にまたがるものを で囲み、中学校4教科にまたがるものを で囲んでいる。★印が小・中学校全ての教科にまたがる項目については、網かけにしている。

- 平均通過率の高い学校は、
- ・ 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行っている。
 - ・ 「広島県教育資料」を活用した研修を行っている。

<教育活動全般>

質問項目	小学校			中学校			
	国語	算数	理科	国語	数学	理科	英語
① 相手や目的に応じて表現の仕方を変える指導に重点を置いた。	★			★★	★	★	
② 既習内容の活用, 他の文章や資料との比較, 見通しや予想など, 考える方法を教える指導に重点を置いた。	★★	★	★	★★	★★	★★	
③ 結論先行型で, 根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。	★	★		★★	★★	★★	
④ 新聞の社説等を読んで, 論に賛成, 反対することやディベート等を行う指導に重点を置いた。	—	—	—				
⑤ 自分の根拠の妥当性を検討する, 自分の意見とは異なる他の意見を検討するなど考えを交流する指導に重点を置いた。				★★	★★	★	
⑥ ことばの教育について, 計画的に研修を行った。				★★	★	★	
⑦ 思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行った。	★★	★	★★	★★	★★	★★	★
⑧ 「広島県教育資料」を活用した研修を行った。	★	★	★	★★	★★	★	★
⑨ 「基礎・基本」定着状況調査報告書の指導改善事例を活用した授業研究を行った。	★	★	★	★★	★★	★	
⑩ 「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行った。	★	★★	★	★★	★	★	
⑪ 各教科等のねらいを達成するために, 授業において, 言語活動の充実を図った。	★			★★	★★	★★	
⑫ 外国語活動(外国語(英語))の指導について, 中(小)学校と連携した。	★	★	★	★★	★★	★	
⑬ 学習規律(聞く姿勢, 発表の仕方, ノートの取り方など)の指導について, 計画的・継続的に中(小)学校と連携した。	★	★		★	★		★
⑭ 校内で推薦図書のリストを作成し, 児童(生徒)に読書をすすめる取組を行った。	★	★		★★	★		
⑮ 様々な本や資料(図, グラフ, 表を含む。)を基に自分の考えをもたせる指導をした。				★	★	★★	
⑯ 家庭学習を計画的に行わせるような指導をした。				★★	★★	★	
⑰ 予習や復習の仕方など, 家庭学習のやり方について指導をした。	★	★		★★	★★	★	

<教科の指導> (教科共通項目)

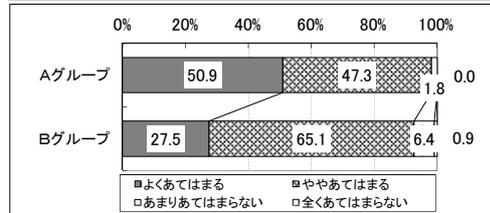
① 授業において, 問題解決的な学習を積極的に取り入れた。		★		★			
② 授業において, 児童(生徒)に何をどこまで達成するのかという具体的なめあてを示した。	★	★	★	★★	★★		
③ 授業において, 児童(生徒)にめあてと対応した自己評価をさせた。		★★		★		★	★

(2) 小・中学校の各教科において指導の差が大きかった項目

ここでは、一覧表に掲げた質問項目のうち、小・中学校の各教科において、「よくあてはまる」と回答した割合の差が最も大きい項目をグラフに示した。

【小学校 国語】

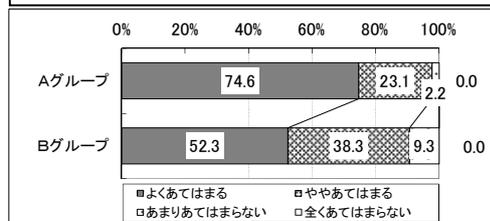
既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想など、考える方法を教える指導に重点を置いた。



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約23ポイントの差がある。

【小学校 理科】

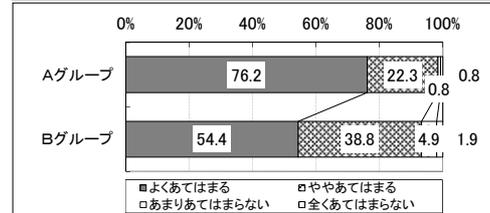
思考力・表現力の育成に焦点を当てた研修を行った。



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約22ポイントの差がある。

【小学校 算数】

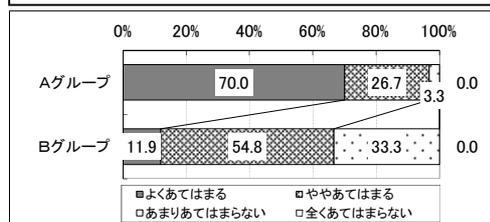
「基礎・基本」定着状況調査報告書の分析を活用して自校のデータを分析・考察する研修を行った。



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約22ポイントの差がある。

【中学校 国語】

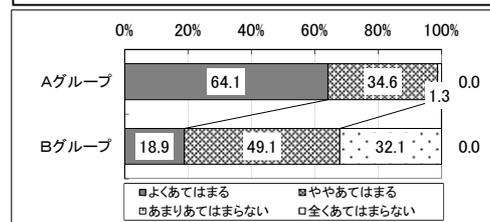
結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約58ポイントの差がある。

【中学校 数学】

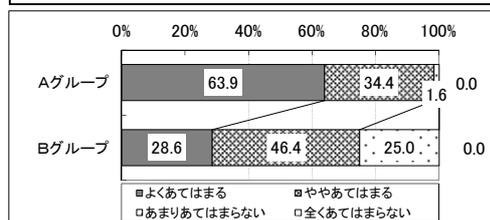
結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約45ポイントの差がある。

【中学校 理科】

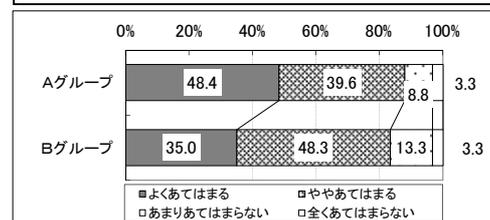
結論先行型で、根拠を挙げて自分の考えを述べたり書いたりする指導に重点を置いた。



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約35ポイントの差がある。

【中学校 英語】

学習規律（聞く姿勢、発表の仕方、ノートの取り方など）の指導について、計画的・継続的に中（小）学校と連携した。



★ 「よくあてはまる」の回答の割合を比較すると、約13ポイントの差がある。